

家庭菜園



南部営農センター 園芸課
営農主幹 検校 哲也



Q 庭に植えたブルーベリーがうまく育ちません。何が原因でしょうか？

A 一般の庭では、酸性の度合いが不十分で、育ちにくいでしょう。

鉢植えをおすすめします。大きめの60ℓほどの鉢に専用の土を入れて育てます。小さな鉢から始めると、植え替えに困ります。初めから大きい鉢を使いましょう。ブルーベリーは、北アメリカ原産の落葉果樹です。酸性土壌の不毛な地に自生していました。当地の人は、作物が育たない中で、野生の果実を摘んで食用にしていました。

pH5以下の酸性土でなければうまく育たない特性があり、さらに湿り気に弱いので水はけの良い土で育てます。

ピートモスを使って培養土【ピートモス半分、鹿沼土4分の1、赤玉土4分の1】を作ります。

ピートモスは、そのままではpH3.8〜4.8の酸性の培土（無調整ピート）です。水苔などが腐食、泥炭化した有機質資材ですが、そのまま使うと水をはじきます。事前に、ピートモスへ水をかけながら、馴染ませます。

なお、市販の「ブルーベリーの土」でも構いません。要するに、水はけのよい酸性の土がブルーベリー向きです。

植えてから3年は実を着けずに木を育てます。枝の先を切り落として花芽を着けません。陽当たり良くするため、込み合った枝を2〜3月に剪定します。5、6年目までは、花芽を半分にして、株元から出たシュートなどの若い枝も切り詰めます。それ以降、古くなった枝は切り落として、出てきたシュートに更新しながら育てます。（図参照）

鉢では、大きく育つのに限界があります。毎冬の剪定で、ほどよい大きさに整えましょう。

1〜3年生苗



その年に伸びた枝を半分に切り戻す

4〜5年生苗



花芽の数を半分にする
シュートも半分に切り戻す

6年生以降



古い枝を分岐の近くで切り戻す
（シュートを新しく育てる）

わが家の朝食でもブルーベリージャムは定番です。ただ、パインに塗るのは、いちごジャム。ブルーベリーはヨーグルトにのせています。



オンライン
農業塾は
コチラ



管内の
病害虫情報は
コチラ



家庭菜園
情報は
コチラ